

文明間の交流と相互理解にむけた グローバルコミュニケーション人材の必要性

徐真華
水本圭亮/訳

人類が最も早く定住した地の一つであるアジアは、文明発祥の地としても重要な位置を占めている。いわゆる世界四大文明をみても、エジプト文明を除く中国文明・メソポタミア文明・インダス文明はみなアジアの範疇にあり、またペルシャ文明・アラビア文明・モンゴル文明など、いずれもが世界的に影響を及ぼしている。現在、全47カ国、1000以上の民族、そして世界総人口の三分の二を擁するアジアは多くの文明が調和し共存をする、まさに地球を代表する地域であると言える。これこそ、習近平総書記がアジア文化カーニバルで「アジア各国には古くからの輝かしい文化があり、それぞれに個性と独自性を誇るとともに、共存共栄している。アジア文明の多様性が、色彩豊かで持続的な活力に溢れるアジア文化をもたらしているのである」と述べた通りである。

地理的・文化的・心理的に結ばれたアジア諸国は経済・教育・文化・社会など多くの分野で長い交流の歴史がある。そして今、アジアは世界で最もダイナミックかつ潜在力をもつ地域の一つであり、世界経済の成長を牽引する重要な地域となっている。経済のグローバル化の進展にともない、アジア各国は地域協力の強

化に積極的であり、その結果、アジアにおける地域経済の統合は拡大をし続けている。持続可能な経済発展は高い能力を持つ人材による強力な支援と知識集約型経済の繁栄なくしては達成されず、そして、地域の文化的な融合と人材支援など重要な役割を担っているのが高等教育である。

このような背景から、アジア各国の高等教育は大きく変化しており、アジアの大学間で行われる国際協力と交流は重要度を増してきている。このため、2021年10月30日には、アジア学長フォーラム事務局にご支援をいただきながら、浙江越秀外国語学院にて第20回アジア大学学長フォーラムを開催した。オンライン形式も交えながら18の国と地域から72名の学長が参加をし、「アフターコロナにおけるアジア高等教育コミュニティの構築」、「『一帯一路』人材の育成と高等教育の発展について」、「大学のガバナンスシステムとガバナンス能力の近代化」、「アフターコロナにおける国際協力」などをテーマと議題として意見交換をし、それぞれに経験を共有し合うことができた。また今回のフォーラムでは『紹興宣言』を採択し、よりオープンかつ包括的な態度でアジアの各大学との

連携を強化することで、国際協力に向けた対話を深めること、共通のプラットフォームの構築すること、共に困難を乗り越えつつ成果を共有しあうことで一致した。

政治・経済・教育・文化など各分野におけるアジア諸国間の国際協力と交流が活発になる中、アジアの大学に課せられた使命であるとともに追求すべき点とは、より多くのグローバル人材を育成し、アジア各国の協力関係を深めるための強力な知的支援と人材面での保障を行うことである。ここで私が思うに、アジアの多様な文化はそれ自体が教育資源ではないかということである。『詩経』・『論語』・『タルムード』・『千夜一夜物語』・『源氏物語』などの古典、そして製紙・印刷・地図・楔形文字・アラビア数字などといった発明の数々、万里の長城・メッカの聖モスク・タージマハル・アンコールワットなどの壮大な建築物、こうした輝かしき文明と文化は大学生の異文化コミュニケーションに対する意識と能力の育成に大いに資するところがあると考えられる。

文化とは国家の、そして民族の魂である。前述のように、アジアは文明の多様性、文化の多元性、そして政治体制や文化習慣の差異が存在する。そのため、協力的かつ開放的で調和のとれたアジア運命共同体の構築、そして「一带一路」の構築推進にあたってはグローバル人材が特に重要である。私の理解するところでは、異文化コミュニケーション能力とは多次元的で重層的なものであり、表層

的な言語コミュニケーションにとどまらず、アジア諸国の社会システム・政策・法律・文化習慣・価値観に精通し、異なるシステム・文化・価値観を理解し尊重できることが重要な資質である。そうでなければ、外国人とのコミュニケーションにおいて「分かったようで、何も分かっていない」という進退窮まる状況に陥ってしまうだろう。

このような観点から、グローバルコミュニケーション人材の育成では理論と実践の両面を重視する必要があると考える。学生の外国語専門教育を強化するとともに、言語だけでなくその国の政治・経済・文化・習慣といった人文社会科学の体系的な学習、また、国際交流に対する適応力と寛容で開かれた心を育成する必要がある。また、アジア各国間に存在する価値観の矛盾と対立、その背景にある伝統文化や宗教といった要素に関する認識を深めていかなければならないだろう。

「アジアの意識」と「アジアのアイデンティティ」が目覚めつつある今、大学はどのような形で互いの結びつきを深めていくべきか。また、どのような方向性で成果を示していくべきなのか。そして、日増しに緊密さを増す新しいアジアにはどのようなスタンスの国際協力と交流がふさわしいのか。今回の『アジア文化』では、これらの疑問に答えるべく特集を組み、読者の皆さまと共有したいと試みた次第である。

(勤務先：浙江越秀外国语学院学長
訳者：浙江越秀外国语学院)

文明交流互鉴需要更多跨文化人才

徐真华

亚洲，人类最早定居地之一，也是人类文明的重要发祥地。世界公认的四大古文明，除了古埃及文明之外，中华文明、美索不达米亚文明、印度文明都在亚洲，另有波斯文明、阿拉伯文明、蒙古文明等等，都产生过世界性的影响。如今，在亚洲这片广袤的大陆上，拥有47个国家、1000多个民族和世界2/3的人口，是名副其实的多种文明和谐共生的典型地区。正如习近平总书记所言：“亚洲各国都有古老灿烂的文化，既独树一帜、各领风骚，又和谐共生、交相辉映。亚洲文明的多样性赋予了亚洲文化更为丰富的色彩、更加持久的生命力。”

亚洲各国，山水相连、人文相通、感情相牵，在经济、教育、文化、社会等众多领域有着悠久的交往历史。如今的亚洲是当今世界经济最活跃、潜力最大的地区之一，也是世界经济增长的重要引擎。随着经济全球化的深入推进，亚洲各国正采取积极行动加强区域合作，使得亚洲区域经济一体化程度不断提高。经济的可持续发展离不开高素质人力资源的强大支持、知识经济的蓬勃发展，高等教育在促进区域文化融通、提供人才支撑等方面发挥着关键作用。

在这样一个大的背景下，亚洲各国的高等教育正经历着深刻变革，亚洲大学之间

的合作与交流，变得愈发重要。基于这样的原由，2021年10月30日，在亚洲大学校长论坛秘书处的支持下，浙江越秀外国语学院举办了第20届亚洲大学校长论坛，来自亚洲18个国家和地区的72位大学校长以线上、线下的方式与会，聚焦“后疫情时代亚洲高等教育共同体建设”“一带一路”人才培养与高等教育高质量发展”“大学治理体系与治理能力现代化建设”“后疫情时代国际合作办学”等主题和议题交流探讨，分享经验。本届论坛还通过了《绍兴宣言》，一致认为，要以更加开放包容的姿态加强亚洲各高校的互联互通，共商合作、共建平台、共克时艰、共享成果。

随着亚洲各国在政治、经济、教育、文化等领域的合作与交流不断深入，于高校而言，培养更多的跨文化人才，为亚洲国家之间深化合作提供有力的智力支持和人才保障，应该成为亚洲大学共同的使命和追求。我认为，亚洲的多元文化是天然的教育资源，《诗经》《论语》《塔木德》《一千零一夜》《源氏物语》等经典名篇，造纸术、印刷术、地图、楔形文字、阿拉伯数字等发明创造，以及长城、麦加大清真寺、泰姬陵、吴哥窟等恢宏建筑，这些交相辉映的灿烂文明和文化，十分有利于培养大学生的跨文化意识和能力。

文化是一个国家、一个民族的灵魂。

如前述所言，亚洲文明的多样性、文化的多元化以及政治制度、社会风俗的差异性，使得跨文化人才在构建合作、开放、和谐的亚洲命运共同体和推进“一带一路”建设的进程中，显得尤为重要。我的理解，跨文化人才能力是多维度、多层次的，其首要的素养和能力是要熟知亚洲各国的社会制度、政策法规、文化习俗、价值观念等，并且理解和尊重不同制度、不同文化和不同的价值观，而不应局限于认知方面的语言交流。否则，在对外交往中往往会出现“看似听懂了，实则根本没明白”的尴尬境况。

鉴于此，我们在跨文化人才培养上，要注重理论与实践并重，在加强学生外语

专业学习的同时，强化其对语言对象国政治、经济、文化、风俗等人文社科知识的系统学习和跨国交流的适应性以及培养他们宽容开放的心态，加深他们对亚洲各国之间深层价值观的矛盾冲突以及其背后的传统文化、宗教等因素的认知。

在“亚洲意识”“亚洲认同”不断觉醒的当下，高校应以什么样的方式加强互联互通？应以什么样的志向展现担当作为？应以什么样的姿态赋能合作交流日益紧密的新亚洲？本期《亚洲文化》以特辑的形式尝试就这些问题作出自己的回答，并与各位读者朋友交流切磋。

（作者单位：浙江越秀外国语学院校长）